

# 人見絹枝・そのスポーツ活動の調査と年表補完

## Investigating and listing Kinue Hitomi's sporting life

三 澤 光 男

Mitsuo MISA WA

### Abstract

It is well-known that Kinue Hitomi (1907~31), pioneer woman athlete in Japan, set up many new records in running, jumping and throwing.

In 1928 and 1929 she was at the highest of her athlete life, but in 1930, after participating in the Third Women's World Games in Prague, she was present at several goodwill athletic meets in Europe, which overworked her, causing out of condition. Returning home, she was not able to come back to athlete life. She died in bed at such young age of 24.

We can point out three aspects of her sporting life:-

I. (player) Needless to say, she was an international top athlete, but it is not so well-known that she was one of the best tennis players at girls' high school in Kansai District, before finding her way to athlete life.

II. (writer) Based on her own practical studies, She wrote some useful books for women athletes, as well as contributed to journals.

III. (instructor) She trained and bred up young women athlete to her successors.

Not only as player, but also as writer and instructor, Hitomi thus made a great contribution to the progress of women's sport in Japan.

The purpose of this study is to make clear her sporting activities by complementing a list of her sporting life.

*keywords* : *player, writer, instructor*

## はじめに

日本女性スポーツ界発展のため、人見の果たした業績は大きく、その内容は(1)陸上競技大会での活躍 (2)数多くの執筆活動 (3)後継者の養成に要約できる。これまで筆者は人見の業績について、以上の3点から研究・発表を試みてきた。

24才という人見の短い生涯で、その業績からみた場合、幾つかの節目があった。(1)は1926年、1928年、1930年と3回にわたる渡欧と遠征地における活躍であり、対外的に人見の声価を高めた年である。(2)は1926年、1929年、1931年と自著『最新女子陸上競技法』『スパイクの跡』『ゴールに入る』の出版の年である。(3)後継者の育成は、1927年、1928年、1930年である。1927年は和歌山県新宮町に始まり、富山、長岡、新潟、秋田、山形での講演・講習会、1928年はアムステルダム・オリンピック大会参加を前に、「南紀巡回コーチ」を、帰国後は11月2日・青森市を皮切りに、同月29日の静岡

県浜松市まで16都市での講演・講習会活動を展開した<sup>1)</sup>。1930年に第3回国際女子競技大会(ブラーグ)へ、5名の高女生を引率し参加したことで、一応の成果を獲た。

## 1. 研究の目的

日本女性スポーツ界発展への使命感から、執筆活動を続け<sup>2)</sup>、後輩育成の活動を展開した人見、その業績は自らがスポーツ活動、競技選手生活を続ける中でなされたことに特筆できる。本研究は人見の実践したスポーツ活動を総括することにより、その業績をより鮮明にしようとしたものである。

人見のスポーツ活動は、自伝ともいえる『スパイクの跡』『ゴールに入る』に詳しく、また人見の競技記録についての研究・発表は数多くなされている。しかし人見のスポーツ活動の全体像について論じた発表は見られない。本研究ではスポーツ活動を年譜化することにより「人見絹枝」研究者への利便性を図ろうとした。

## 2. 研究方法

本研究は人見がスポーツ活動（テニス）を開始した岡山県立高等女学校在学時代を始めとし、内容を一. テニスにおける試合成績 二. 陸上競技における成績に区分し進めた。

(1)研究対象期間は人見の岡山高女に入学した1920年（大正9）から、第3回国際女子競技大会の行われた1930年（昭和5）までとした。

(2)対象とした大会は公式の地区大会（道・府・県など）をa. 地方大会（関東・関西など）をb. 全国大会（全日本選手権など）をc. 国際大会をdとした。

(3)調査項目は ①大会開催年・月・日 ②大会名 ③開催場所 ④競技（テニスの場合は試合）成績とした。

(4)参考文献は『朝日運動年鑑』『アサヒスポーツ』『大日本体育協会史』下巻 『第四回明治神宮体育大会報告書』『日本陸上競技史』『大阪朝日新聞』『東京日日新聞』『山陽新報』等である。

### 一. テニスにおける試合成績

人見のスポーツ活動は、1921年（大正10）の岡山高等女学校2年生で始まり、種目はテニスであった<sup>3)</sup>。大正期末の岡山県下のテニスの普及度や技術の高さは、日本有数のものであった。人見の高女界での活躍は『日本庭球史』<sup>4)</sup>にもとりあげられ、卓越したものであった。人見の成績は次の通りである。

#### 1921年

①b. 11月5日 大阪時事新聞社主催第4回関西女学校庭球大会

大阪・市岡高女校庭<sup>5)</sup>

第2部 奈良女師3：2岡山高女

岡山高女3：1境高女

岡山女師3：2岡山高女

岡山高女は前年（1920）の「中国女子庭球大会」で優勝し、関西大会へと歩を進めたが、予選敗退した。なお本大会の岡山高女の選手名は人見を含め不詳である<sup>6)</sup>。

#### 1922年

①b. 10月17日・18日 大阪時事新聞社主催第5回関西女学校庭球大会

大阪・市岡高女校庭<sup>7)</sup>

1回戦 浮田（岡山高女）3：1 村上（大阪・）  
人見 野村（鈴蘭会高女）

2回戦 浮田（岡山高女）3：1 松山（和歌山・）  
人見 外山（女師）

3回戦 永田（境高女）3：2 浮田（岡山高女）  
菊園 人見

人見絹枝（前衛）と浮田芳子（後衛）は同期生で、3回戦での惜敗であった。人見は他に「4回ばかりの戦いに相当の成績を残し…」<sup>8)</sup>と記しているが、大会名は特定できなかった。

#### 1923年

人見は「春のシーズンに2つばかりのテニス会に優勝しました」<sup>9)</sup>と書いているが、大会の特定はできなかった。浮田はテニスを続け、人見は陸上競技へ進む年となる。

### 二. 陸上競技における成績

人見は1923年に陸上競技界へデビューし、その経緯を『スパイクの跡』<sup>10)</sup>に詳述している。溯って前年の人見が大阪でテニスを行った日（10月17日）に岡山高女校庭では、大阪朝日新聞岡山通信部主催の「第1回岡山県女子体育大会」が行われ、同大会が人見の陸上競技大会への初出場となる。

以下は人見の競技会出場記録である。記載に当っては用語を統一し、略記を用いた。①大会場では「外苑トラック」「外苑競技場」を「明治神宮外苑競技場」とし、「美吉野運動場」もこれに做った。②競技成績では1着・1位を①に、世界新記録・日本新記録を世界新・日本新、世界タイ記録・日本タイ記録を世界タイ・日本タイと略記した。③所属も大毎（大阪毎日新聞社）、日（日本）の略記を用いた。

#### 1923年

①a. 11月4日 第2回岡山県女子体育大会  
岡山女師校庭<sup>11)</sup>

走幅跳 ①人見絹枝（岡女） 4 m67

籃球投 ①人見絹枝（岡女） 21m89

総合優勝は前年と同じ春霞高女であった。

#### 1924年

①a. 10月5日 第3回岡山県女子体育大会  
番外参加 岡山女師校庭<sup>12)</sup>

ホ・ス・ジャンプ 人見絹枝 10m33

②c. 11月6日・7日・8日 全日本選手権・陸上競技  
明治神宮外苑競技場<sup>13)</sup>

女子の部

ホ・ス・ジャンプ ①人見絹枝（二階堂）10m38

やり投 ①人見絹枝（二階堂）26m37

#### 1925年

①b. 10月17日・18日 大阪体育協会主催第4回陸上競技選手権大会兼明治神宮競技大会近畿予選

大阪市立運動場<sup>14)</sup>

女子の部

50メートル ①人見絹枝(京都一女教)6秒8  
ホ・ス・ジャンプ①人見絹枝(京都一女教)11m62

世界新

②c. 11月1日・2日・3日 第2回明治神宮競技大会  
明治神宮外苑競技場<sup>15)</sup>

女子の部

50メートル ①人見絹枝(京都一女教)7秒0  
三段跳 ①人見絹枝(京都一女教)11m35

人見の京都一女教員としての勤務は1学期だけであり、①b・②cとも「二階堂出」<sup>16)</sup>が正しいと考える。

1926年

①c. 4月17日 東京・大阪朝日新聞社主催四大陸上競技大会—第1回女子競技<sup>註1)</sup>—

明治神宮外苑競技場<sup>17)</sup>

50メートル ①人見絹枝(女子体専)7秒0  
ホ・ス・ジャンプ①人見絹枝(女子体専)10m76

50メートルは棄権者が多く、人見の独走であった。

②b. 5月1日・2日 第2回関東陸上競技選手権大会  
明治神宮外苑競技場<sup>18)</sup>

女子の部

100メートル ①人見絹枝(体専)13秒6  
砲丸投 ①人見絹枝(体専)9 m97  
(8ポンド) 日本新

③c. 5月16日 大阪毎日新聞社後援第3回日本女子オリンピック大会 美吉野運動場<sup>19)</sup>

人見嬢番外競技

野球用球投 人見絹枝 69m23  
バスケットボール投 人見絹枝 25m00  
砲丸投 人見絹枝 9 m39  
走幅跳 人見絹枝 5 m06

④c. 6月5日・6日 東京日日新聞社主催第2回女子体育大会 明治神宮外苑競技場<sup>20)</sup>

番外<sup>註3)</sup>

200メートル 人見絹枝(大毎)27秒6  
日本新

走幅跳 人見絹枝(大毎)5 m75  
日本新

模範競技

400メートル・リレー 寺尾正子・松翁俊子  
人見絹枝・寺尾文子  
52秒2 日本新

⑤d. 8月27日・28日・29日

第2回国際女子競技大会 エーテポリ<sup>21)</sup>

60メートル ⑤人見絹枝(日)8秒0

100ヤード ③人見絹枝(日)12秒0

250メートル ⑥人見絹枝(日)37秒0

走幅跳 ①人見絹枝(日)5 m50

立幅跳 ①人見絹枝(日)2 m47

円盤投 ②人見絹枝(日)33m62

個人総合 ①人見絹枝(日)15点

人見が大阪毎日新聞社へ職を転じ、国際的選手としてデビューした年で、『スパイクの跡』に①c、②b、③c、④cの記載はなく、⑤dは詳述されている。

1927年

①c. 5月7日・8日 東京日日新聞社主催第3回女子体育大会 明治神宮外苑競技場<sup>22)</sup>

番外<sup>註4)</sup>

200メートル 人見絹枝(大毎)26秒1  
世界新

走幅跳 人見絹枝(大毎)5 m54

番外競技<sup>註5)</sup>

立幅跳 人見絹枝(大毎)2 m61  
世界新

②c. 5月21日・22日 大阪健母会主催・大阪毎日新聞社後援第4回日本女子オリンピック大会 美吉野運動場<sup>23)</sup>

50メートル ②人見絹枝(大毎)6秒8

400メートル ①人見絹枝(大毎)61秒2

③b. 6月19日 大阪女子体育研究会主催大阪時事後援第7回大阪女子運動大会 大阪市立運動場<sup>24)</sup>

番外<sup>註6)</sup>

100メートル 人見絹枝(大毎)12秒4  
世界タイ

④c. 8月6日・7日 第14回全日本陸上競技選手権大会 明治神宮外苑競技場<sup>25)</sup>

50メートル ①人見絹枝(大毎)6秒7

100メートル ①人見絹枝(大毎)12秒8

⑤c. 10月8日・9日<sup>註7)</sup> 大阪体育協会主催第6回陸上競技選手権大会兼明治神宮体育大会近畿予選 大阪市立運動場<sup>26)</sup>

女子の部

50メートル ①人見絹枝(大毎)6秒5

100メートル ①人見絹枝(大毎)12秒4

世界タイ

⑥c. 11月1日・2日・3日 第4回明治神宮体育大会

明治神宮外苑競技場<sup>27)</sup>

50メートル ①人見絹枝(近畿) 6秒4

100メートル ①人見絹枝(近畿) 12秒5

当年5月に人見は国内で初の2着に甘んじ、1着橋本静子(和歌山・日方高女)と同タイムの6秒8であった。なお『スパイクの跡』に③bを6月17日-235頁とし、④cを8月16日・17日、競技記録50メートル6秒6、100メートル12秒6-195頁の誤植を発見した。

1928年

①c. 5月5日・6日 健母会主催第5回日本女子オリンピック大会 美吉野運動場<sup>28)</sup>

100メートル ①人見絹枝(大毎) 12秒8

400メートル ①人見絹枝(大毎) 59秒0  
世界新

三種競技 ①人見絹枝(大毎) 100m 12秒4・  
走高跳 1 m43(日本新)・やり  
投 28m89

②c. 5月19日・20日 第15回全日本陸上競技選手権大会 大阪市立運動場<sup>29)</sup>

100メートル ①人見絹枝(近畿) 12秒2  
世界新

走幅跳 ①人見絹枝(近畿) 5 m98  
世界新

③d. 6月23日 第4回インター・クラブ選手権大会 ロンドン・スタンフォードブリッジ競技場<sup>30)</sup>

走幅跳 ①人見絹枝(日) 18フィート4インチ-  
5 m58.8 世界新

④d. 7月14日 A.A.A. 女子選手権大会 ロンドン・スタンフォードブリッジ競技場<sup>31)</sup>

220ヤード準決勝①人見絹枝(日) 25秒8  
世界タイ

決勝①人見絹枝(日) 26秒2

走幅跳 ②人見絹枝(日) 17フィート7インチ  
やり投 ①人見絹枝(日) 118フィート-35m96  
英国新

⑤d. 7月30日・8月2日 第9回国際オリンピック大会 アムステルダム<sup>32)</sup>

7月30日

100メートル準決勝 B組 ④人見絹枝(日)  
落選 参考記録・12秒8

8月2日

800メートル決勝 ②人見絹枝(日)  
参考記録 2分17秒6

⑥d. 8月18日・19日 国際大会 ベルリン<sup>33)</sup>

800メートル ①人見絹枝(日) 2分23秒9

走幅跳 ①人見絹枝(日) 5 m51

やり投 ②人見絹枝(日) 36m58

⑦c. 10月13日・14日 大阪体育協会主催第7回陸上競技選手権大会 大阪市立運動場<sup>34)</sup>

100メートル ②人見絹枝(W・S・C)

400メートル・リレー ①W・S・C(橋本・堀・  
本城・人見) 53秒2

当年10月大阪での競技会には、日・仏対抗競技会(大連運動場)に出場した両国選手が参加し、人見は橋本静子(日方高女)に2度目の苦杯を喫し、2着の計時はなく橋本の記録は13秒2であった。なお『スパイクの跡』に当大会の記述はなかった。

1929年

①c. 4月28日・29日 第6回日本女子オリンピック大会 美吉野運動場<sup>35)</sup>

200メートル ①人見絹枝(大毎) 26秒8

三種競技 ①人見絹枝(大毎) 217点  
世界新 100m12秒4(87点)  
走高跳 1 m45(71点) やり投  
32m13(59点)

②c. 5月18日・19日 東京日日新聞社主催第5回女子体育大会 明治神宮外苑競技場<sup>36)</sup>

200メートル ①人見絹枝(大毎) 24秒7  
世界新

走幅跳 ①人見絹枝(大毎) 5 m92

円盤投 ①人見絹枝(大毎) 34m18  
日本新

③c. 10月13日 日・独対抗大阪大会  
甲子園競技場<sup>37)</sup>

番外女子

100メートル ①人見絹枝(大毎) 12秒4

④c. 10月17日 朝鮮・日・独対抗競技  
京城運動場<sup>38)</sup>

100メートル ①人見絹枝(日) 12秒0

200メートル ①人見絹枝(日) 24秒4

走幅跳 ①人見絹枝(日) 6 m075

⑤c. 10月19日・20日 中国・日本・独三国大会  
奉天・東北大学運動場<sup>39)</sup>

60メートル ①人見絹枝(日) 7秒5

100メートル ①人見絹枝(日) 12秒0

⑥c. 11月1日・2日・3日 第16回全日本陸上競技選手権大会兼第5回明治神宮体育大会

明治神宮外苑競技場<sup>40)</sup>

200メートル ①人見絹枝 (朝鮮) 25秒4  
走幅跳 ①人見絹枝 (朝鮮) 5 m91  
400メートル・リレー

①L・A・C (朝鮮) 51秒6 日本新  
(温品春子・堀千代子・小川正栄・人見絹枝)

10月17日開催の100メートルと走幅跳はともに世界記録であったが、追風5.8メートルのため非公認となった。

1930年

①c. 5月10日・11日 第7回日本女子オリンピック大会 美吉野運動場<sup>41)</sup>

三種競技 ①人見絹枝 (大毎) 201点466  
100m 13秒0・走高跳 1 m40・やり投 35m27

②a. 7月6日 日本女子スポーツ連盟・健母会  
主催渡欧女子選手送別競技会  
大阪市立運動場<sup>42)</sup>

渡欧選手・女学校選手対抗リレー

③a. 7月13日 渡欧女子選手送別競技会  
名古屋・椋山高女運動場<sup>43)</sup>

走幅跳 人見絹枝 5 m90  
やり投 人見絹枝 37m84 (日本新)

④d. 9月6日・7日・8日  
第3回国際女子競技大会 プラーク<sup>44)</sup>

60メートル ③人見絹枝 (日) 7秒8  
400メートル・リレー ④日本 (渡辺すみ子・中西  
みち・本城ハツ・人見絹枝) 52秒0

走幅跳 ①人見絹枝 (日) 5 m90  
やり投 ①人見絹枝 (日) 37m01  
(600g)

三種競技②人見絹枝 (日) 192点  
100m 13秒2・走高跳 1 m40  
やり投 34m46

個人総合 ①人見絹枝 (日) 13点

⑤d. 9月11日 日本・ポーランド女子対抗競技会  
ワルシャワ<sup>47)</sup>

60メートル ②人見絹枝 (日) 7秒8  
100メートル ②人見絹枝 (日) 12秒6  
走高跳 ①人見絹枝 (日) 1 m40  
円盤投 ③人見絹枝 (日) 32m19  
やり投 ①人見絹枝 (日) 36m55

得点 ポーランド・54点 日本・35点

⑥d. 9月13日 日・英・独女子競技大会

ベルリン<sup>46)</sup>

100メートル ①人見絹枝 (日) 12秒4  
200メートル ②人見絹枝 (日) 28秒2  
走幅跳 ①人見絹枝 (日) 5 m56  
やり投 ③人見絹枝 (日) 33m90

⑦d. 9月20日 日本対ベルギー女子対抗競技  
ブリュッセル<sup>47)</sup>

100メートル ①人見絹枝 (日) 13秒4  
800メートル ②人見絹枝 (日)  
1着と差2メートル

400メートル・リレー ①日本 (渡辺・中西・本城・  
人見) 53秒4

円盤投 ①人見絹枝 (日) 29m13  
やり投 ①人見絹枝 (日) 37m25  
得点 日本・52点 ベルギー・47点

⑧d. 9月21日 日本対フランス女子対抗競技 パリ<sup>48)</sup>

80メートル ②人見絹枝 (日)  
200メートル ②人見絹枝 (日)  
1着と差2フィート

400メートル・リレー ②日本 (渡辺・中西・本城・  
人見) 1着と差15ヤード

走高跳 ②人見絹枝 (日) 浜崎千代 (日)  
ロードレー (仏) 1 m30

走幅跳 ①人見絹枝 (日) 5 m61  
円盤投 ①人見絹枝 (日) 31m19  
やり投 ①人見絹枝 (日) 37m44

得点 フランス・46点 日本・38点

当年7月13日のやり投「日本新」は競技場の関係で公認記録とならなかった。また9月20日の対ベルギー戦の日本側の得点を48点とする誤植がみられる<sup>註9)</sup>。

以上、陸上競技における人見の成績を総括すれば、①世界記録・日本記録の更新回数は、1928-1929年が最多であった。人見も『ゴールに入る』で1929年を、私のスポーツ生活中で最も大きなものを得さしめた年と認めている<sup>49)</sup>。②1930年は8つの大会・30種目に出場し、うち5大会・26種目は9月の第3回国際女子競技大会 (プラーク) への遠征・海外の大会である。競技会数の増加は逆に記録更新数の低下を生じている。

因みに競技記録の更新は、競技者の体調のほかグラウンド状態や気象条件に左右されることが多い。プラーク大会後の人見は、ポーランド戦ではリレー・メンバーを外れ、ベルギー戦は雨の中を凸凹ある芝生に、石灰で縁どったトラックを走った<sup>50)</sup>。また対仏戦は、2着以下を計時しないという質の低い競技会であった。

## おわりに

人見のスポーツ活動に関する年譜を作成し、次のことが明らかになった。

- (1) 人見のテニスにおける技倆は、関西女子中等学校界ではトップ級であった。
- (2) 陸上競技の競技記録は、1928-1929年に最多の記録更新をしている。
- (3) 1930年は競技会出場が過多で記録の更新数は減少している。

以上(2)の1928年に、人見の執筆活動は強まり——1929年5月『スパイクの跡』、11月『戦ふまで』出版、雑誌への寄稿の増加など後継者育成の面でも先述したように、1928年に積極化している。競技と著述と後輩育成を兼ね行なうことで、日本女性スポーツ界への意識改革に努め、1930年を迎える。

プラグ大会(1930)へは前年の世界恐慌の余波を受け、遠征への資金づくりに苦勞し、大会後の強行スケジュールの競技会が心身の過勞をよび、24才の夭折を招いたといえる(表1)。

最後に人見の競技会出場時の資格・所属機関については史料に混乱がみられた。第2回明治神宮競技大会(1925)では「京都一女教」<sup>52)</sup>「二階堂出」とあり、また第5回明治神宮体育大会(1929)では「近畿」<sup>53)</sup>「大毎」<sup>54)</sup>「朝鮮」となっていた<sup>註10)</sup>。また1921年の「関西女学校庭球大会」に人見参加したかの確認はできず、今後の課題とした<sup>註11)</sup>。

表1 人見絹枝の出場大会数・種目数

種目 年 月	テニス		陸上競技							
	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930
1										
2										
3										
4						c(2)			c(2)	
5						b(2) c(4)	c(3) c(2)	c(3) c(2)	c(3)	c(1)
6						c(2)	b(1)	d(1)		
7								d(2) d(2)		a(1) a(2)
8						a(6)	c(2)	d(4)		
9										d(5)a(5)d(4) d(5)a(7)
10		b(1)		a(1)	b(2)		c(2)	c(2)	c(1)c(3) c(2)	
11	b(1)		a(2)	c(2)	c(2)		c(2)		c(3)	
12										
計	1(1)	1(1)	1(2)	2(3)	2(4)	5(16)	6(12)	7(16)	6(14)	8(30)

a,b,c,dは地区大会、地方大会、全国大会、国際大会を示し、( )は種目数である。

### 注

- 1) 三澤光男(2002)人見絹枝の講演・講習会活動—日本女性スポーツ発展への貢献—体育史研究 19号 pp.43-56

- 2) 三澤光男・武田 一(1998)人見絹枝研究に関する文献目録 日本女子体育大学紀要 28巻 pp.119-124
- 3) 人見絹枝(1929)スパイクの跡 P.11 平凡社 東京
- 4) 表 孟宏(1985)日本庭球史—軟庭百年 P.338 遊戯社 東京
- 5) 朝日新聞社(1922)大正十一年度運動年鑑(第七年) P.274 朝日新聞社 大阪
- 6) 創立七十周年史編集委員会(1969)創立七十周年史 P.53 岡山県立操山高等学校七十周年記念事業実行委員会 岡山
- 7) 岡山県立高等女学校(1922)花橘 第四十一号 学制頒布五十年記念号 P.6
- 8) 人見絹枝(1929)スパイクの跡 P.20 平凡社 東京
- 9) 人見絹枝(1929)スパイクの跡 P.20 平凡社 東京
- 10) 人見絹枝(1929)スパイクの跡 P.21 平凡社 東京
- 11) 朝日新聞社(1924)大正十三年度運動年鑑(第九年) P.303 朝日新聞社 大阪
- 12) 朝日新聞社(1925)大正十四年度運動年鑑 第十年 P.332 朝日新聞社 大阪
- 13) 朝日新聞社(1925)大正十四年度運動年鑑 第十年 P.385 朝日新聞社 大阪
- 14) 朝日新聞社(1926)大正十五年度運動年鑑 第十一年 P.181 朝日新聞社 大阪
- 15) 大日本体育協会(1937)大日本体育協会史 下巻 P.918 大日本体育協会 東京
- 16) 日本陸上競技連盟(1956)日本陸上競技史 P.271-273 日本体育社 東京
- 17) 東京朝日新聞 1926.4.18付
- 18) 朝日新聞社(1927)昭和二年度運動年鑑 第十二年 P.196 朝日新聞社 大阪
- 19) 東京朝日新聞 1926.5.17付
- 20) 東京日日新聞 1926.6.6-7付
- 21) 日本陸上競技連盟(1956)日本陸上競技史 PP.194-195 日本体育社 東京
- 22) 東京日日新聞 1927.5.8-9付
- 23) 朝日新聞社(1928)昭和三年度運動年鑑 第十三年 P.169 朝日新聞社 大阪
- 24) 大阪毎日新聞 1927.6.20付
- 25) 東京日日新聞 1927.8.8付
- 26) 朝日新聞社(1928)昭和三年度運動年鑑 第十三年 P.169 朝日新聞社 大阪
- 27) 明治神宮体育会(1929)第四回明治神宮体育大会報告書 P.140 明治神宮体育会 東京
- 28) 朝日新聞社(1929)昭和四年度運動年鑑 第十四年 P.178 朝日新聞社 大阪
- 29) 朝日新聞社(1929)昭和四年度運動年鑑 第十四年 PP.130-131 朝日新聞社 大阪
- 30) 大日本体育協会(1937)大日本体育協会史下巻 P.940 大日本体育協会 東京
- 人見絹枝(1929)スパイクの跡 P.297 平凡社 東京
- 31) 大日本体育協会(1937)大日本体育協会史 下巻 P.940 大日本体育協会 東京

- 32) 大日本体育協会(1930)第九回国際オリンピック大会競技大会報告書 PP.56-57, 66-67 大日本体育協会 東京
- 33) 大日本体育協会(1937)大日本体育協会史 下巻 P. 940 大日本体育協会 東京
- 34) 大日本体育協会(1937)大日本体育協会史 下巻 P. 941 大日本体育協会 東京
- 35) 東京日日新聞 1929.4.30付
- 36) 朝日新聞社(1930)昭和五年度運動年鑑 第十五年 P. 218 朝日新聞社 大阪
- 37) 朝日新聞社(1930)昭和五年度運動年鑑 第十五年 P. 158 朝日新聞社 大阪
- 38) 朝日新聞社(1930)昭和五年度運動年鑑 第十五年 P. 159 朝日新聞社 大阪
- 39) 朝日新聞社(1930)昭和五年度運動年鑑 第十五年 P. 159 朝日新聞社 大阪
- 40) 明治神宮体育会(1930)第五回明治神宮体育大会報告書 PP.19-20, 22-23 明治神宮体育会 東京
- 41) 東京日日新聞 1930.5.11-12付
- 42) 大阪毎日新聞 1930.6.28付
- 43) 学園七十年史編集委員会(1985)春嵐-塚原学園七十年史 P.123 塚原学園名古屋大学 名古屋
- 44) 大日本体育協会(1937)大日本体育協会史 下巻 P.63 大日本体育協会 東京
- 45) 朝日新聞社(1931)昭和六年度運動年鑑 第十六年 P. 183 朝日新聞社 大阪
- 46) 朝日新聞社(1931)昭和六年度運動年鑑 第十六年 P. 183 朝日新聞社 大阪
- 47) 朝日新聞社(1931)昭和六年度運動年鑑 第十六年 P. 183 朝日新聞社 大阪
- 48) 朝日新聞社(1931)昭和六年度運動年鑑 第十六年 P. 183 朝日新聞社 大阪
- 49) 人見絹枝(1931)ゴールに入る P.41 一成社 東京
- 50) 人見絹枝(1931)ゴールに入る P.209 一成社 東京
- 51) 佐々木秀幸(2002)陸上競技の競技者養成のプログラム策定に向けて P.46 日本陸上競技連盟 東京
- 52) 大日本体育協会(1931)大日本体育協会史 下巻 P. 918 大日本体育協会 東京
- 53) 朝日新聞社(1930)昭和五年度運動年鑑 第十五年 P. 362 朝日新聞社 大阪

- 54) 日本陸上競技連盟(1956)日本陸上競技史 P.273 日本体育社 東京

註

- 註1) 第5回東西対抗競技, 第5回中等学校対抗競技, 第3回府県対抗千六百メートル・リレー 第1回女子競技を指す。
- 註2) 小原敏彦(1990)『人見絹枝物語』朝日新聞社に10m39の誤植がみられる(62頁)。
- 註3) 人見は200メートル・走幅跳とも「高女」の部に参加したと考えられる。200メートルの入賞者は1~5着まで氏名・所属高女が発表され, 6着はいない。
- 註4) 200メートルの予選は第1日目に行われ(27秒6), 決勝は2日目で6人が出場した。走幅跳は第1日目に行われ, 200メートル予選を走る前に出した1跳目の記録がベストであった(『スパイクの跡』185~186頁より)。両種目とも人見は高女生と同時に行ったと考えられる。トラックは7コースまであり入賞者は各6人が発表された。
- 註5) 立幅跳は競技種目にはありませんでしたが, 番外として加えてもらったのです(『スパイクの跡』183頁より)。
- 註6) 『スパイクの跡』には「エキジビション」と書いている(236頁)。
- 註7) 『スパイクの跡』には10月18日・19日の誤植がある(208頁)。
- 註8) 『人見絹枝物語』にも同じ誤植がある(118頁)。
- 註9) 『ゴールに入る』206頁『人見絹枝物語』253頁に掲載。
- 註10) 当時の競技会参加申込書は日本陸上競技連盟等に保管されていないことを確認した。
- 註11) 地方紙『山陽新報』11月6日付をはじめ中央紙とも「原首相暗殺」記事が占めていた。

(平成14年9月19日受付)  
(平成14年11月21日受理)